

## 2016 年度 新入生アンケート 結果報告【短大】

### 目次

1. 調査の概要 .....	2
2. 本学の魅力 .....	2
3. 特色あるプログラムの認知 .....	3
4. 本学を選択するのに何が影響したか .....	4
5. 大学生活の姿勢 .....	4
6. 留学について .....	6
7. 大学生活における不安 .....	7
8. 関心がある地域 .....	7
9. 職業に対する考え方 .....	8
10. 大学進学 of 動機 .....	9
11. まとめ .....	10

## 1. 調査の概要

本報告は、京都外国語短期大学における 2016 年度の新入生を対象として、本学に対する印象や大学生活に対する姿勢などを把握することを目的として実施したアンケートの結果を集計したものである。アンケートは、1 年生全員が履修する「基礎ゼミナール」の授業内で実施し、本年度からは Web 回答を導入した<sup>1</sup>。Web 回答を導入したことによって、回答のデータ化やクリーニングの手間が軽減されたが、回収率については昨年度と実施の機会と方法が変わったため比較することはできない<sup>2</sup>。なお、本年度から回答を記名式とした。調査への回答状況を表 1 に示す。

[表 1] 調査の回収状況

男	女	合計
47(85.5%)	71(78.9%)	118(81.4%)

## 2. 本学の魅力

調査では、本学の特徴について 22 の項目を挙げ、それぞれについて魅力を感じるかどうかを「魅力である」から「魅力ではない」までの 5 段階で評定してもらった。図 1 に各項目の回答を集計し、「魅力である」と「ある程度魅力である」の割合を加えた値が大きい順に並べ替えて示した。

多くの項目が本学の魅力として認識されているが、その中でも上位を占めるのが「たくさんの外国語が学べること」「専門的に深く外国語が学べること」「少人数で授業が行われること」などである。少人数制の授業で、多様な外国語を専門的に深く学べることが、新入生には魅力として映っていることがうかがえる。入学間もない新入生のこのような印象や感覚は、そのまま受験生にとっての本学の魅力であるとも考えられる。多言語、専門性、少人数制授業は、本学の教育の大きな特徴であり、それらが魅力として新入生および受験生に受け入れられているといえるだろう。

他方で、「クラブやサークル活動が活発であること」や「奨学金などの経済支援が充実していること」などが、「魅力ではない」と評定されている。クラブやサークル活動が魅力ではないのは、これらの活動が低調だから魅力がないということではなく、おそらく短期大学の短い学生生活では課外活動が重視されておらず、あまり関心がもたれていないためだろう。他方で、奨学金などの経済支援については、支援体制や制度が十分でないと感じられていることが魅力ではないと評定される要因だろう。

<sup>1</sup> 本学では Google 社が提供する Google Apps を導入しており、全学生にアカウントを与えている。新入生調査では、Google フォームを利用した。

<sup>2</sup> 昨年度は、宿泊をとまなう学外オリエンテーションの際に実施された。ほとんどの新入生が参加する企画であるため、回収率は非常に高かった。

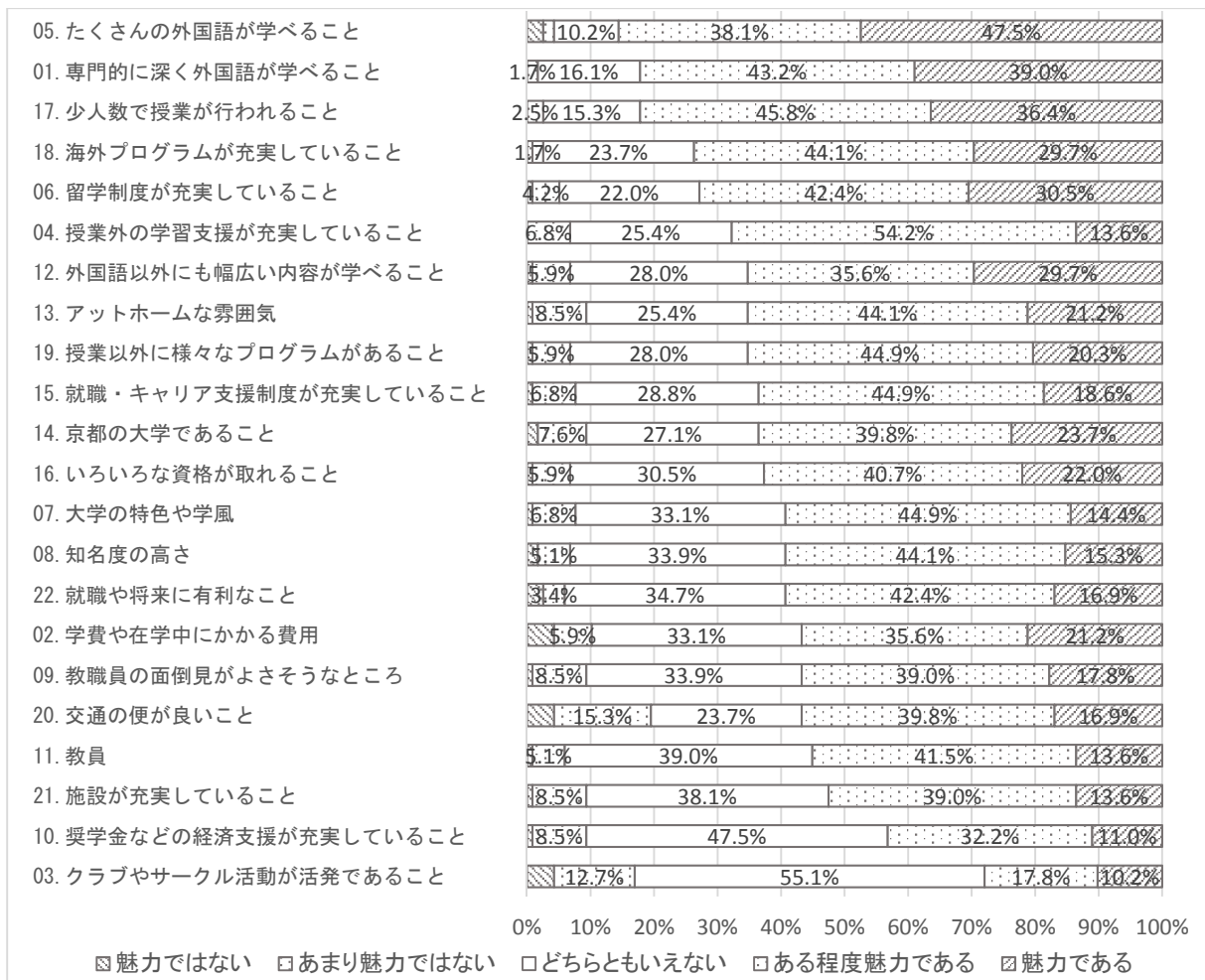


図1 本学の魅力

### 3. 特色あるプログラムの認知

本学が打ち出す特色のあるプログラムについて、入学前から知っていたものを選択してもらった。入学前から多くの学生に認知されているのは、「インターンシップ」や「NINJA」などがあり、他方で「京都外大リーダーズ・スクール」などはあまり認知されていないようである。これらのプログラムの認知の状況は、受験生に向けた広報戦略と関係していると考えられる。それぞれのプログラムの位置づけやPRのあり方と、ここに表れた学生の認知状況との関係を点検しておく必要があるだろう。

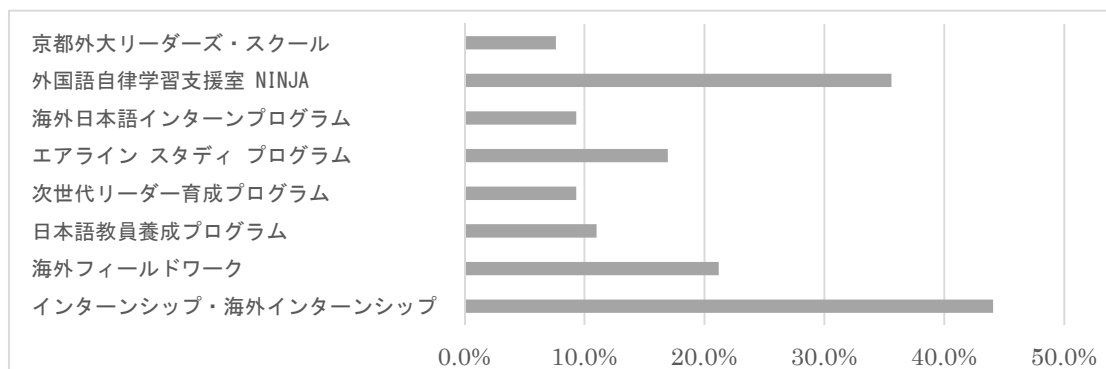


図2 特色あるプログラムの認知状況

#### 4. 本学を選択するのに何が影響したか

進路として本学への入学を選択するのにどのようなことが影響したのかを、10の項目についてそれぞれ「影響した」から「影響していない」の5段階で評定してもらった。それぞれの項目を集計し、「影響した」「ある程度影響した」の割合を加えた値が大きい順に並べ替えたものを図3に示す。

影響が最も大きいのは「大学のホームページ」である。学生の多くが本学のWebサイトから情報を入手しており、それを重視して進学先を決めているということだろうか。これに続いて「高校の先生のアドバイス」「オープンキャンパス」「家族のアドバイス」が比較的影響の大きい項目である。Webサイトやオープンキャンパスなどで得た情報を勘案して、高校の教員や家族など身近な人のアドバイスを聞きながら進学先を決めている様子がうかがえる。Webサイトやオープンキャンパスなど受験生本人に直接働きかける部分とともに、彼らにアドバイスする人に対しても本学の魅力や教育理念などを分かりやすく伝えていくことが必要だといえるだろう。

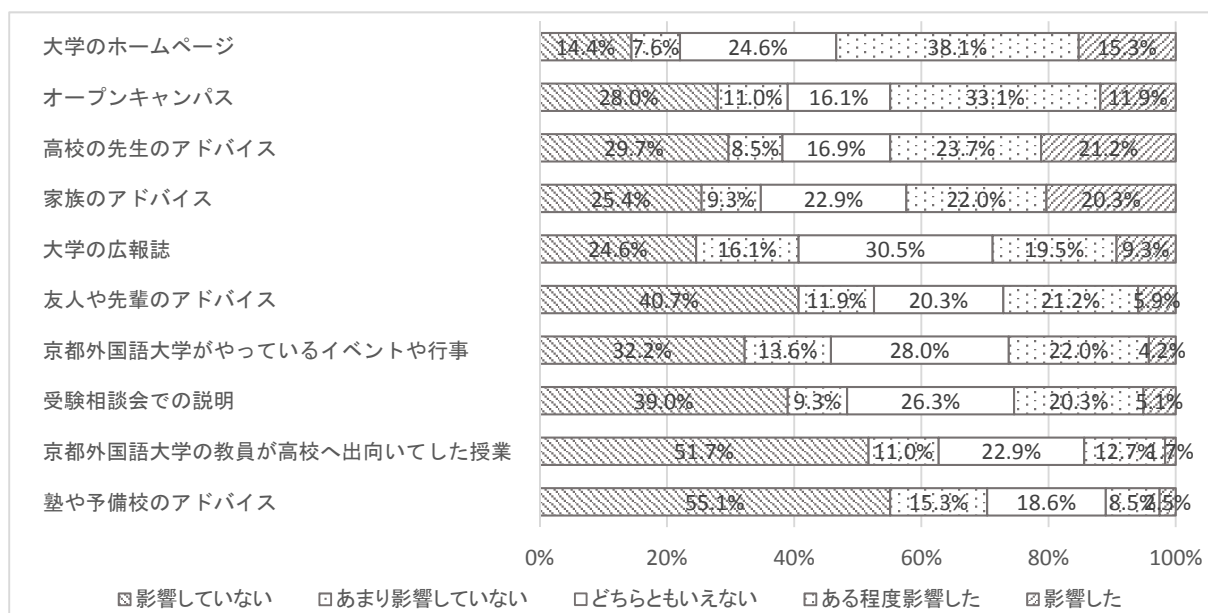


図3 進学先を本学に決めるのに影響した要因

#### 5. 大学生生活の姿勢

大学生生活に対する姿勢について、いくつかの質問を設けた。まず、「大学生になったので何か新しいことに挑戦していきたい」という質問に対しては、大半の学生が「そう思う」と回答している。また、「学業以外にも幅広い活動をしてみたい」という質問に対しても、同様に「そう思う」と回答する学生がかなり多い。多くの学生が、大学生になって何か新しいことに挑戦したいという意欲を持ち、また授業以外にも様々な活動に取り組みたいと考えていることがわかる。学生のこうした意欲をうまく受け止め、正課・課外を問わず充実した大学生生活を送れるようなカリキュラムや課外プログラムなどを提供する必要があるだろう。

大学での学び方についても質問をした。まず、教室で講義を聴く聴講型の授業と、ディベートやディスカッションを交えたよりアクティブな授業とを比較すると、「どちらともいえない」という学生も多いが、アクティブで参加型の授業を期待する学生が多いようである。他方で学び方として、知識や理論を中心に学ぶのと社会と関わりながら実践的に学ぶのとを比較す

ると、どちらかといえば実践的な学びを期待する学生の方が多いが、半数近くは「どちらともいえない」と回答している。

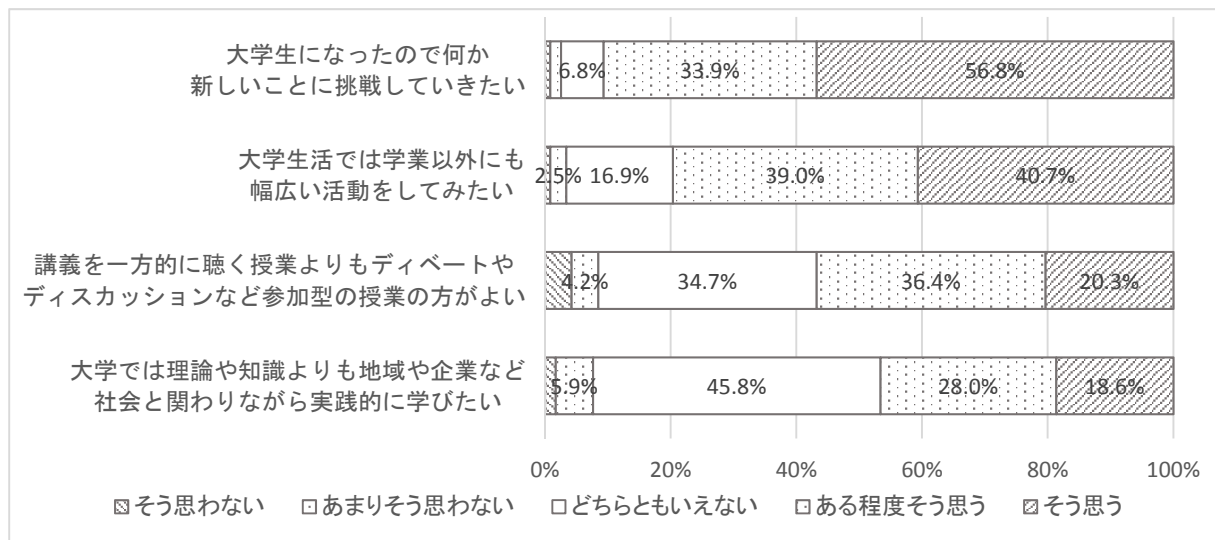


図 4 大学生活に対する姿勢

次に、11 の項目を挙げ、大学生活において力を入れて取り組みたいと思っていることをすべて選んでもらった。多くの学生が「大学の勉強」に力を入れたいと考えており、学業意欲が高いことがわかる。正課の学業以外では、「友達づくり・人間関係を広げること」や「資格取得」なども言及数が多い。課外の活動では「アルバイト」が比較的多いが、「クラブやサークル活動」にはあまり関心がないようである。短期大学の短い学生生活の中で、学業や資格取得に力点が置かれていることがうかがえる。

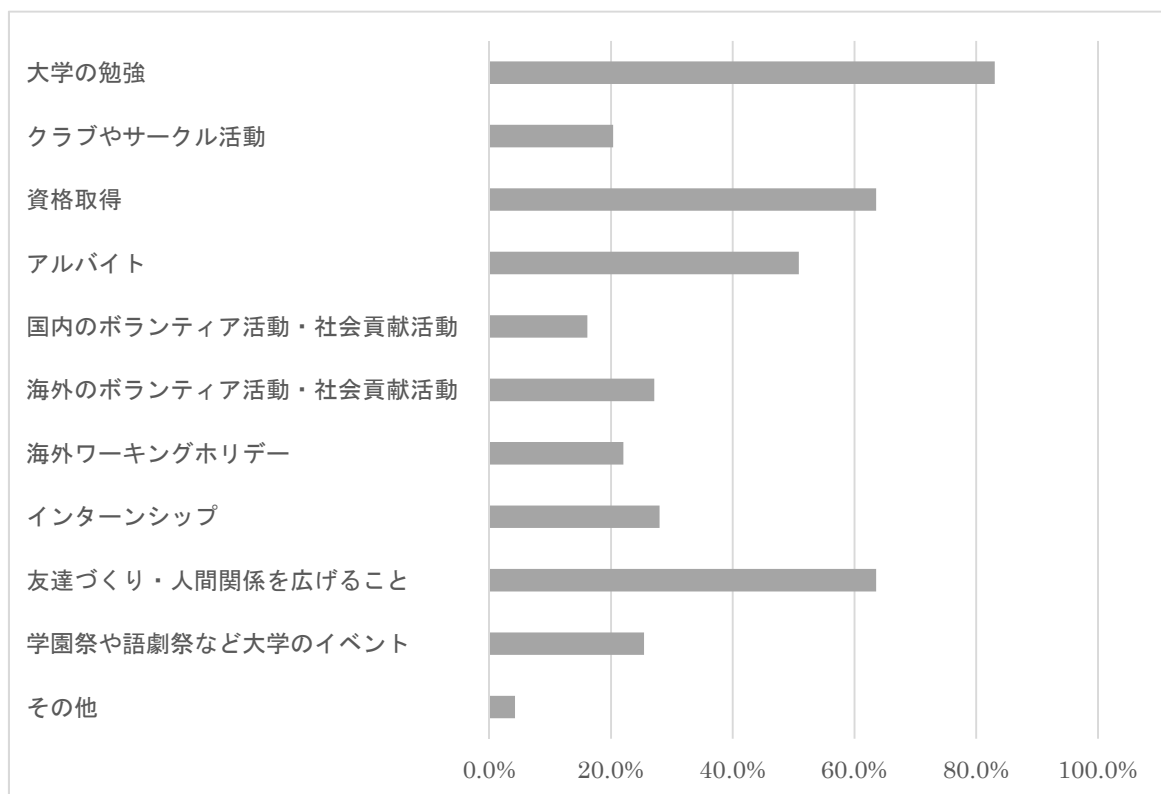


図 5 大学生の間に力を入れて取り組みたいこと

## 6. 留学について

高校までの留学経験についてたずねたところ、1割程度の学生が留学経験があると回答しており、留学期間は1か月程度の短期のものが多い。

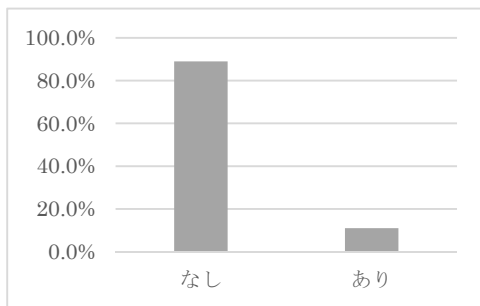


図6 高校までの留学経験

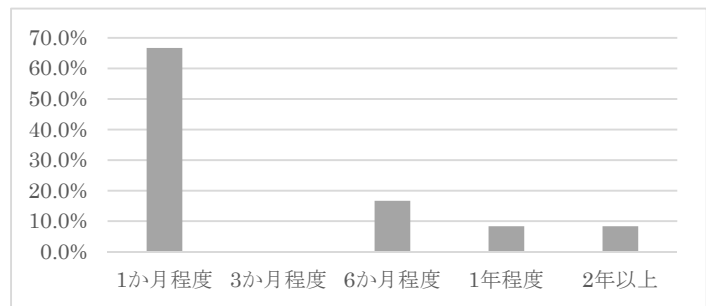


図7 高校までの留学における期間

大学での留学については、ほとんどの学生が「留学したい」と回答しており、在学中に何らかの形で留学したいと考えているようである。また、留学期間は1年程度を希望する者が約半数で、それよりも短い期間での留学希望が残りの約半数となっている。

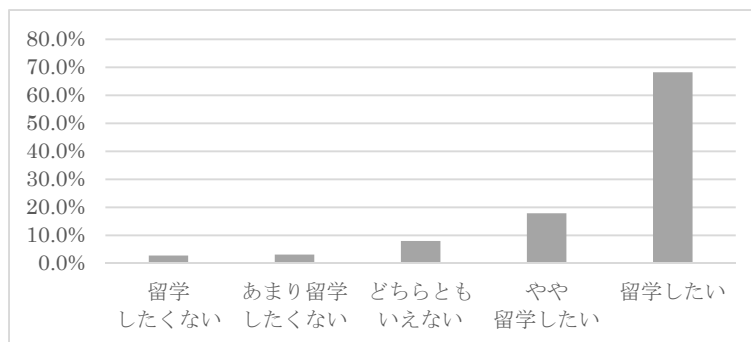


図8 大学での留学希望

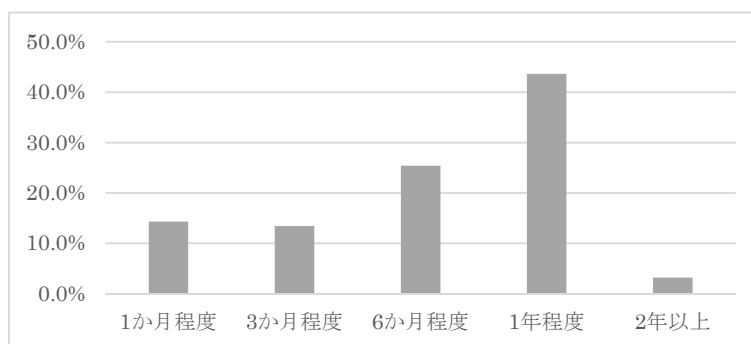


図9 希望する留学期間

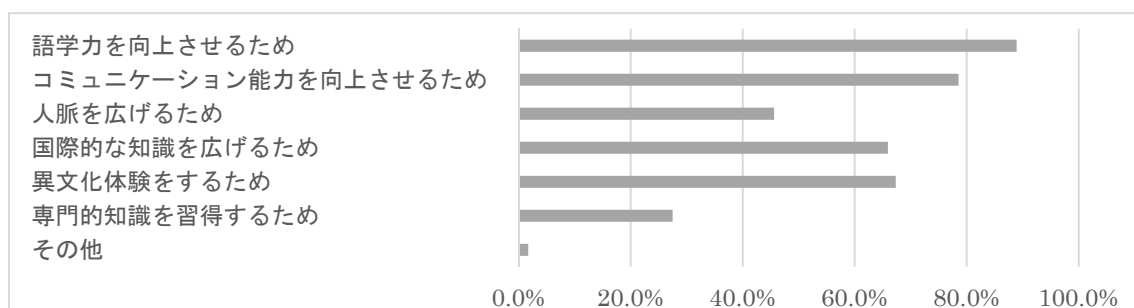


図10 留学目的

## 7. 大学生活における不安

大学生活に対する不安や悩みについて7つの項目を挙げ、それぞれについて不安の度合いを5段階で回答してもらった。比較的多くの学生が不安や悩みを感じているのが、「大学での勉強や成績」「卒業後の就職や進路」である。入学直後の新入生は、大学の勉強についていけるか、きちんと単位が取得できるのかなど、学業面での不安が大きいようである。大学では高校までとは大きく異なり、自分自身で主体的に学ばなければならないなど、学習スタイルが根本的に変わることなどが、このような不安につながっているのだろう。また、短期大学は在学期間が2年間と短いため、卒業後の進路に関して入学直後から不安が大きくなるのだろう。

これらの他にやや気になるのは、「経済的問題」についての不安である。不安を抱える学生が顕著に多いわけではないが、「不安がある」「やや不安がある」と回答する学生を合わせれば、4割もの学生が何らかの経済的問題に不安を感じているようである。この点については、継続的に注意を払っておく必要があるだろう。

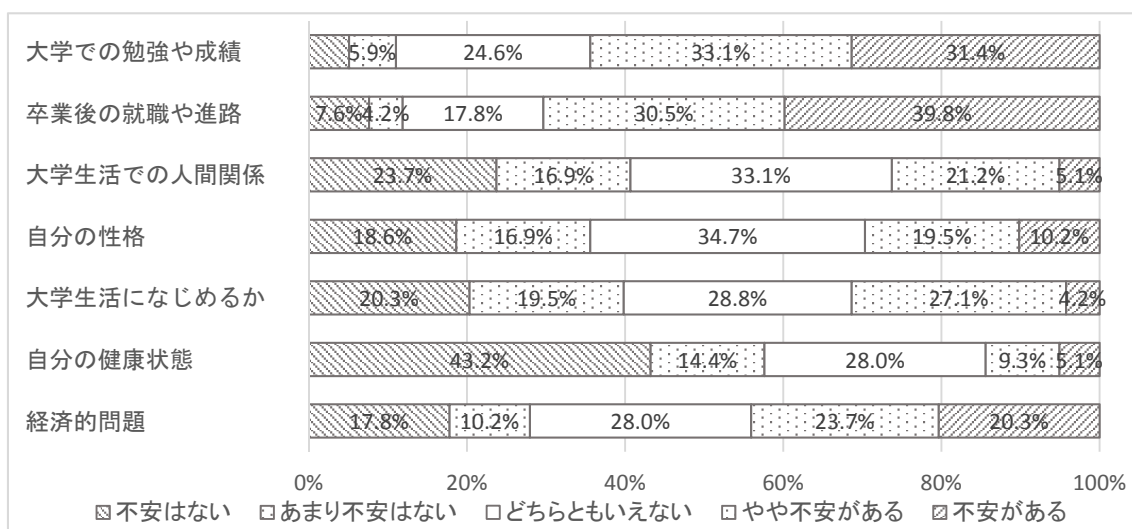


図 11 大学生活に対する不安

## 8. 関心がある地域

関心がある海外の地域についてたずねたところ、英語を専攻する学生が多いため、英語圏の北米、オセアニア地域に興味があると回答する学生が他の地域に比べて顕著に多い。

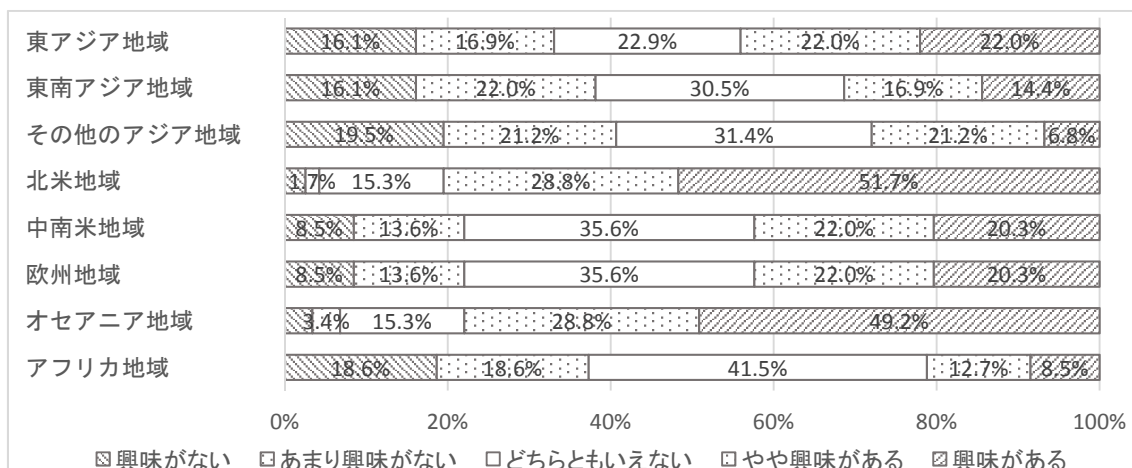


図 12 興味がある地域

## 9. 職業に対する考え方

職業を選択する際にどのような事柄を重視するのかを、17の項目を挙げて、それぞれどの程度重視するかを5段階で評定してもらった。それぞれの項目を集計し、「かなり重要」「重要」の割合を加えた値が大きい順に並べ替えて示す。

職業選択において最も重要だと考えられているのは、「自分自身がやりたい職業」である。これに続いて重要だと考えられているのが「やりがいや達成感」「才能が発揮できる」「新しいことに挑戦できる」といった項目である。新入生においては、地位や収入よりも自己実現的な要素が職業選択において重視されるようである。また、「誰かの役にたち感謝される」など他者に貢献することや、「安定」「高収入」といった点も職業選択の基準として重視されていることがうかがえる。他方で、「人の上に立ち権力が大きい」ことは、職業選択の上であまり重視されないようである。

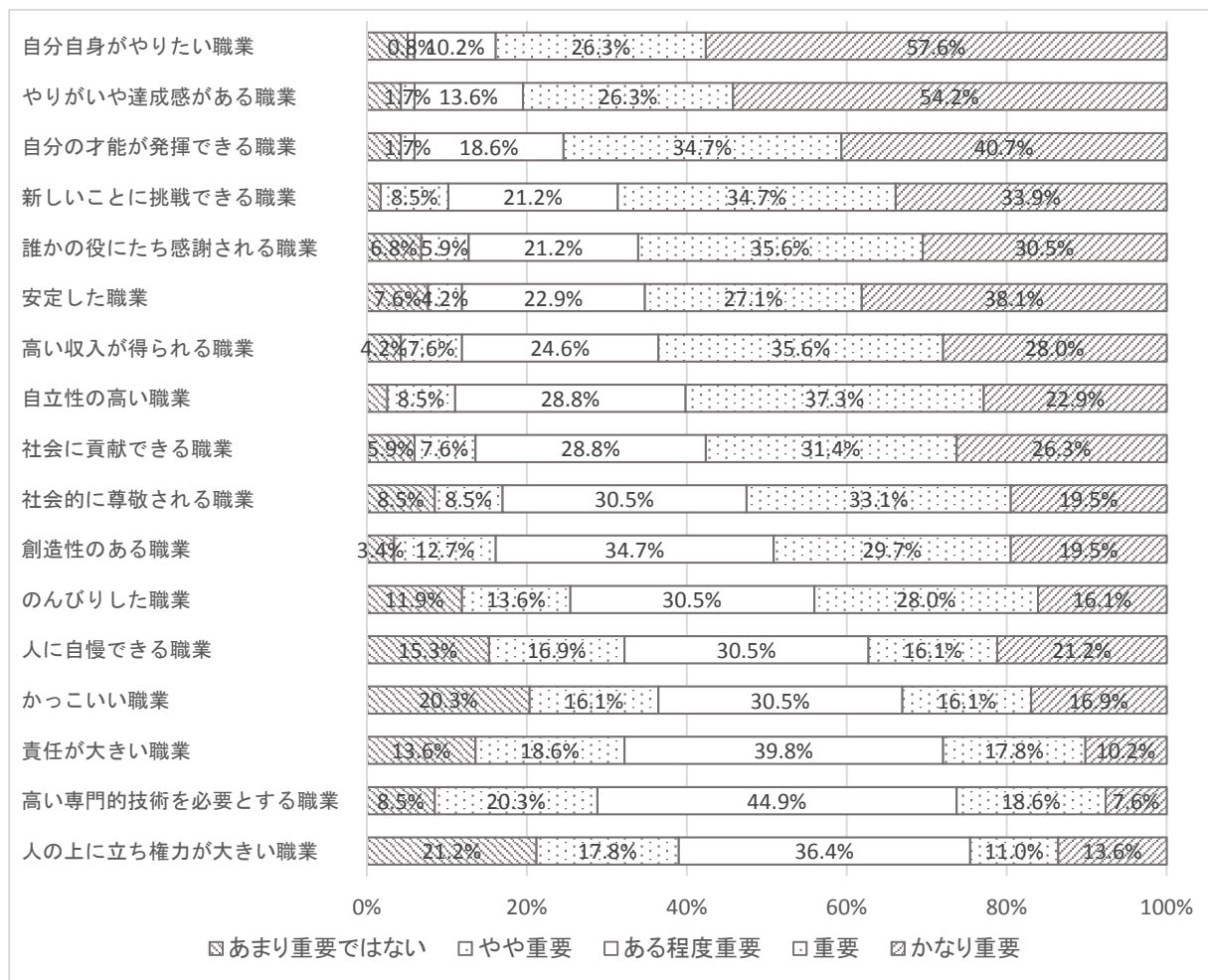


図 13 職業を選択する際に重要なこと



## 10. 大学進学の実動機

大学に進学した理由について 24 の項目を挙げ、それぞれについて自分にどれくらいあてはまるのかを評定してもらった。それぞれの項目を集計し、「あてはまる」「ある程度あてはまる」の割合を加えた値が大きい順に並べ替えて示す。

多くの学生が大学に進学した理由として言及するのが、「視野を広げたい」や「やりたいことができる」といった自己実現、「専門知識の習得」「広く教養を身につける」など勉学を目的とするものである。また、「就職に有利」や「希望する職業に就きたいから」といった実利的な理由にも、言及が比較的多い。他方で、「なんとなく」や「見栄」といった消極的な動機への言及は少ないようである。ただし、本調査が授業内に実施されていることや記名式であることなどを踏まえれば、回答の分布が「社会的なごまかし」によるバイアスがある可能性も考慮すべきだろう。

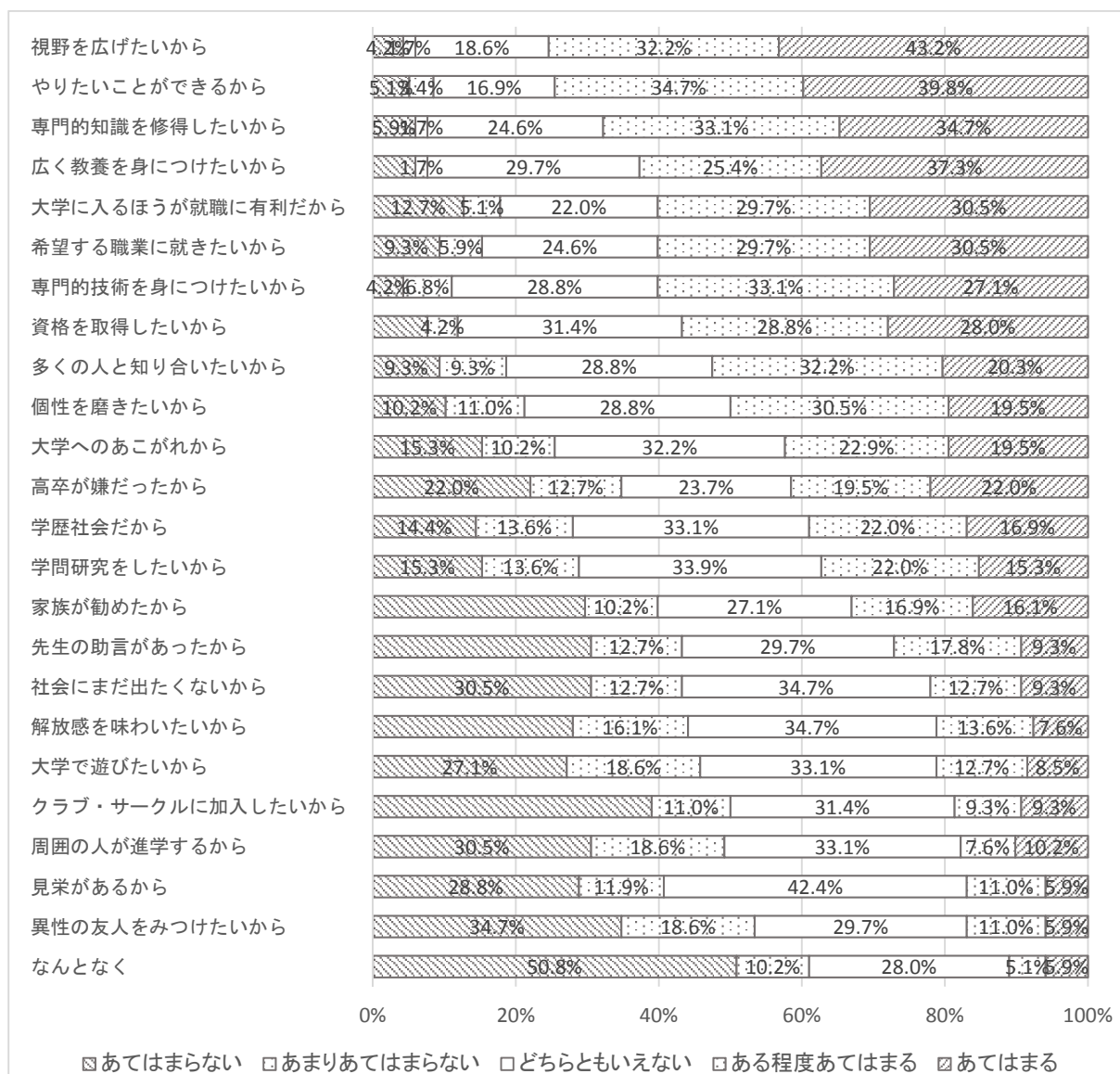


図 14 大学に進学した動機

## 11. まとめ

ここでは、大学生活に対する姿勢や大学進学の目的など幅広い項目について調査した新入生アンケートの回答を集計し、2016年度の新入生の特徴について概観した。ここで得られた知見は、今後の教育改善等を進めていくための基礎的な情報となるものである。どのような学生が本学に入学し、彼らがどのように大学生活を送り、いかに成長していくのかを知るための手掛かりを得る出発点となる資料である。こうした調査を継続的に実施し、学生の実態を把握することで、本学の課題等を明らかにし改革や改善に結びつけることができるだろう。今年度からアンケートを記名式としたことや、新たに試行的な調査項目を設けたのは、このように学生の特性や状況を様々な側面から継続的に把握することを目的としたものである。

本報告書では、各項目の単純集計を中心に調査結果の全体像を概観したが、今後は事後に得られた情報なども組み合わせ、より踏み込んだ分析を行う予定である。また分析と並行して、次年度の新入生アンケートおよびその他の学生アンケートに向けて、より精確かつ有益な情報を得るために調査の内容についても、ここでの結果を踏まえて検討を進めていきたい。